

『比較社会文化研究』文献目録

平成9(1997)年 第1号 ~ 平成26(2014)年 第35号 (九州大学大学院比較社会文化研究科発行)

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
1	日本語の「南進」：「大東亜戦争」期の日本語普及政策	松永 典子	1	1997	H9
2	作家意識の生成：志賀文学を視座として	中村 智	1	1997	H9
3	『中論頌』の論証形式について：ナーガールジュナのvyavahara	江藤 正顕	1	1997	H9
4	市町村内部の財政資金の地域構造：区別財源制度を中心に	細見 彩子	1	1997	H9
5	「アジア・太平洋」の経済的地域統合とAPEC	鄭 敬娥	1	1997	H9
6	現代日本語の客体結果相とヴォイス	副島 健作	1	1997	H9
7	間接受け身と自動詞の関係に関する一考察	許 明子	1	1997	H9
8	ジェンダーの政治学：アメリカにおけるフェミニズムとレズビアン演劇	柴山 麻妃	1	1997	H9
9	現代日本におけるセクシュアリティ研究のためのノート：その出発点の位置づけ	有元 健	1	1997	H9
10	合衆国の高等教育機関におけるユダヤ人差別：ニューヨーク州「州立大学の必要性に関する臨時委員会」報告書、『高等教育における機会の不平等』を手がかりに	北 美幸	2	1997	H9
11	清浦内閣と第二次護憲運動	松本 洋幸	2	1997	H9
12	逆光・現在・逆言：パウル・ツェランの位置	江藤 正顕	2	1997	H9
13	中国人の養生観とその文化・宗教的背景	翁 其銀	2	1997	H9
14	Jane Austenにおける数の一致：社会言語学的考察	末松 信子	2	1997	H9
15	インドネシア政治のなかの「新中間層」	佐々木 拓雄	2	1997	H9
16	'改宗する側の論理'についての覚書：東南アジア大陸部におけるキリスト教布教への視角について、トゥッカーの所論をてがかりに	片岡 樹	2	1997	H9
17	EU Multi-level Governanceの検証：英国を事例にして	福田 猛仁	3	1998	H10
18	井伏鱒二「黒い雨」の位置：「体験の継承」という役割について	内田 友子	3	1998	H10
19	地域情報化指標と地域情報化：北九州市を事例として	大杉 卓三	3	1998	H10
20	高見順の南方行と《文学非力説》	河田 和子	3	1998	H10
21	1897年のバデニー言語令事件：オーストリア社会民主党およびキリスト教社会党の指導層の動勢を中心に	江口 布由子	3	1998	H10
22	「第十夜」における悪鬼の影	権 赫建	3	1998	H10
23	異文化の衝突と融合：郭沫若の《女神》とその時代	武 継平	3	1998	H10
24	変態叙説：想像的身体性を探究するための	江藤 正顕	3	1998	H10
25	ミッテラン政権の地方分権化改革における「国民的統一」問題：1982年地方分権化法をめぐる国民議会の審議を手がかりに	山下 祐一	4	1998	H10
26	森高千里流通論：な、よ、だわ、のかぐや姫	江藤 正顕	4	1998	H10
27	地方公共団体の広域化と地域再編成：北九州市の市町村合併を事例として	細見 彩子	4	1998	H10
28	鈴木正三の「世法則仏法」再考：「世法」の解釈を中心にして	三浦 雅彦	4	1998	H10
29	韓国・中国文化を通して見た「第一夜」の二重構造	権 赫建	4	1998	H10
30	日本語フォリナー・トークにおける語彙の修正に関する一考察	池田 隆介	4	1998	H10
31	郭沫若の『星空』論："五四"退潮期における苦悶と思索	武 継平	4	1998	H10
32	陶晶孫『両姑娘』への一考察	小崎 太一	4	1998	H10

No.	論文タイトル	著者	巻	年
33	郭沫若の初期文学論考	武 継平	5	1999 H11
34	ステイト・アクションの法理にみる「自由」	榎 透	5	1999 H11
35	歴史の語りとしてのフィクション：ヒロシマ・ナガサキの『アンダーグラウンド』とは	内田 友子	5	1999 H11
36	公共機関によるEMS構築	伊藤 佳世	5	1999 H11
37	情報通信基盤整備におけるラストマイル問題	大杉 卓三	5	1999 H11
38	中国における地域格差の決定要因	姜 平	5	1999 H11
39	自動車産業における流通系列化：日産自動車・三菱自動車を中心に	吉川 勝広	5	1999 H11
40	日本語と韓国語の受身文の分類に関する試考	許 明子	5	1999 H11
41	陶晶孫と関東大震災	小崎 太一	5	1999 H11
42	芥川龍之介の「西方の人」論：〈山の上の問答〉をめぐって	林 薫植	5	1999 H11
43	1945-1949年ドイツにおけるアメリカナイゼーション ラルフ・ヴィレット著	駒木根 崇	5	1999 H11
44	中国明代民歌の中の「物」と「恋」：「掛枝兒」を中心として	朴 春麗	6	1999 H11
45	大正期農村問題と国民高等学校運動	吉村 日出東	6	1999 H11
46	『交隣須知』におけるh末音名詞	宮下 尚子	6	1999 H11
47	地方自治研究と地域民主主義：湯布院町の「潤いのある町づくり条例」の制定過程を手がかりとして	光本 伸江	6	1999 H11
48	陶晶孫の福岡時代の文学にみられる世紀末の耽美性について	小崎 太一	6	1999 H11
49	中国と日本における「魯迅と漱石」研究の史的考察：魯迅と漱石の比較論の予備的研究	潘 世聖	6	1999 H11
50	「漢宮秋」劇の悲劇性	伊藤 実雪	7	2000 H12
51	人権規定を私人間に直接適用しないことの意味	榎 透	7	2000 H12
52	Agencyについて：バトラーのagency概念を中心に	森山 達矢	7	2000 H12
53	メディア・ディスコース分析のための一考察：T.A.van Dijkのニュース・ディスコース分析に関する方法論的試論	高 文局	7	2000 H12
54	朝鮮戦争における中国の参戦	高 蓓	7	2000 H12
55	快点儿走と"走快点儿"：中国語の命令文における形容詞+量詞の位置	宮下 尚子	7	2000 H12
56	〈汪国真現象〉について：中国1990年代初頭の文学現象の一考察	掘野 このみ	7	2000 H12
57	張芸謀の文学映像化研究：『紅いコーリャン』と『羅生門』の比較を中心に	馬 小立	7	2000 H12
58	植民地と女性：日本植民統治時代における台湾小説を中心とした女性文学について	王 愿琦	7	2000 H12
59	韓国における日本語作文教育についての一考察：意識調査に基づいて	金 宥暎	7	2000 H12
60	「魯迅思想」の原型と近代日本：留学期における日本受容を中心に	潘 世聖	7	2000 H12
61	19世紀後半帝政ロシアにおける穀物の「玉突き的流通」と穀物商人：中央黒土地帯を中心に	赤座 孝朝	7	2000 H12
62	イギリスの「1965年人種関係法」	山田 澄子	7	2000 H12
63	満鉄撫順炭鉱の把头制度：1907年から1911年までを中心として	庾 炳富	8	2000 H12

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
64	価値顛倒の視点と「文明批評」の様相：『阿Q正伝』と『我輩は猫である』を中心に	潘 世聖	8	2000	H12
65	郁達夫の文学観について：郁達夫と田山花袋との比較を中心に	李 麗君	8	2000	H12
66	寄宿舎制度と製糸工女：郡是の事例(1920-1921)	成田 一江	8	2000	H12
67	日本語母語話者と中国人日本語学習者の「断り」の対照研究	邱 利華	8	2000	H12
68	家電リサイクルシステムの日・台比較：EPR概念を中心に	村上 理映	8	2000	H12
69	中国延辺地区朝鮮語の歯茎破擦音と口蓋音化	宮下 尚子	8	2000	H12
70	現代日本語の主体結果相：シテイルについて	副島 健作	8	2000	H12
71	公共資本の生産力と地域経済成長	羅 洲夢	9	2001	H13
72	満鉄撫順炭鉱における「一步作業頭制度」：1931年から1936年までを中心として	庾 炳富	9	2001	H13
73	佐多稲子と「女性の解放」：「夫の暴力」を描いた作品を中心として	野本 泰子	9	2001	H13
74	「刺青」における美意識研究：墮落者における美の達成	吉 美頭	9	2001	H13
75	魯人と漱石文学における芸術的特徴：民族文化、美意識との関連を含め	潘 世聖	9	2001	H13
76	郁達夫と田山花袋：『沈淪』『空虚』を『蒲団』の比較をめぐって	李 麗君	9	2001	H13
77	Effects of Social and Psychological Factors on the Attainment of Second Language	橋本 高明	9	2001	H13
78	Practitioner Research on a Free Elective System of University English Courses: A proposal for ELT Curriculum Revision	伊賀 友紀子	9	2001	H13
79	尾崎紅葉『むき玉子』論：エミール・ゾラ『制作』との関連をめぐって	坂井 美紀	10	2001	H13
80	台湾少女漫画白書	王 愿琦	10	2001	H13
81	宮沢賢治初期文学におけるディストピア：「蜘蛛となめくちと狸」を中心に	黄 英	10	2001	H13
82	日中日常挨拶表現再考	曲 志強	10	2001	H13
83	佐多稲子とセクシュアリティのメッセージ	野本 泰子	10	2001	H13
84	郁達夫と近代日本について	李 麗君	10	2001	H13
85	「民本主義と帝国主義」再考	李 秀烈	11	2002	H14
86	万延元年のフットボール：近代と現代の鏖	蘇 明仙	11	2002	H14
87	家電・パソコン・携帯電話のリサイクルと生産者責任	村上 理映	11	2002	H14
88	発話行為「断り」に見られるストラテジー：「意味公式」の新しい枠組の創造	邱 利華	11	2002	H14
89	中国日系企業の経営方式における問題点	周 静	11	2002	H14
90	Symbolic SpeechによるGovernment Speech：アメリカ合衆国における国旗焼却事件を素材として	徳永 達哉	11	2002	H14
91	李朝後期の辞説時調に現われた男女の"恋"	朴 春麗	11	2002	H14
92	1960年代アジアにおける地域協力と日本の外交政策：アジア開発銀行(ADB)本店所在地決定過程を中心に	鄭 敬娥	11	2002	H14
93	新たな都市空間, Canal Cityの素描：若者の恋愛を中心として	田 奉昊	11	2002	H14
94	V在L形式と動詞の性質	秋山 淳	11	2002	H14

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
95	佐多稲子とロマンティック・ラブのジレンマ	野本 泰子	11	2002	H14
96	自家用車の宿命的問題と「脱クルマ社会論」	前田 善弘	11	2002	H14
97	日本人とシンガポール人との異文化コミュニケーション：相互協力的コミュニケーションの方略の観点から	Lai Siew hoon	12	2002	H14
98	客家語からみた諷誦の鎌倉宋音の音韻現象	羅 濟立	12	2002	H14
99	ニューメディアの普及による情報格差に関する研究	呉 炫錫	12	2002	H14
100	中国石炭政策の展開過程：中小零細炭鉱を中心に	楊 慶敏	12	2002	H14
101	契約移民時代のホノルル日本人社会と日本人売春婦	宮本 なつき	12	2002	H14
102	中国高齢化と地域福祉の課題	陳 曉嫻	12	2002	H14
103	1920年代:郁達夫の社会文化的研究：職業作家以前:教員として	李 麗君	12	2002	H14
104	峠-朝鮮歌謡文学に見る心の境界線：李朝時調と民謡「アリラン」を中心に	朴 春麗	12	2002	H14
105	藤原惺窩における杜甫詩受容	王 京鈺	12	2002	H14
106	中国語と日本語における談話の構造分析：依頼を中心に	李 善子	12	2002	H14
107	自動車産業二つの分析視点	吉川 勝広	12	2002	H14
108	「源実朝」言説と太宰治の『右大臣実朝』（一）	李 在錫	12	2002	H14
109	清末以降の社会変動とカム発見：西康省建省の動きを中心に	蘇 鳳鳴	12	2002	H14
110	「Symbol」とGovernment Speech	徳永 達哉	12	2002	H14
111	ジャワのムスリム社会と再イスラーム化：「多様性」の今日的位相	佐々木 拓雄	12	2002	H14
112	国際社会における一方的人道的介入の正当性をめぐって：NATOによるユーゴスラヴィア空爆を事例に	千知岩 正継	12	2002	H14
113	「源実朝」言説と太宰治の『右大臣実朝』（2）	李 在錫	13	2003	H15
114	自己言及性をめぐって：『取り替え子』と『憂い顔の童子』を中心に	蘇 明仙	13	2003	H15
115	18世紀英語における不定代名詞の呼応(Concord)	小松 義隆	13	2003	H15
116	状況「ヲ」格の他動性について：中国語訳との対照から	Xie Xin Ping	13	2003	H15
117	ベルクソンにおける持続の観念について	釜掘 幸	13	2003	H15
118	1920年代: 郁達夫の社会文化的研究(2)：作家としての経済生活の様相	李 麗君	13	2003	H15
119	貨幣の必然性について：中国におけるマルクスの価値形態論研究の問題点	楊 立国	13	2003	H15
120	「サイズ」における身体：レディメイド産業の展開と身体認識の変容に関する考察	稗島 武	13	2003	H15
121	中国書画論にみる「連綿書」の形成過程	松永 恵子	13	2003	H15
122	林羅山における杜甫の受容	王 京鈺	13	2003	H15
123	中国における解放以後の"双語"研究概観：漢語借用語の問題を中心に	宮下 尚子	13	2003	H15
124	話す訓練に関する日本語教師の意識	川崎 ひとみ	13	2003	H15
125	レスポンシブル・ケア活動の理念と現実(2)：社会との対話を事例として	野見山 里恵	13	2003	H15

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
126	一般廃棄物に関する行政と住民における「問題認識のギャップ」：福岡市「循環型システム研究会」の事例から	藤本 延啓	13	2003	H15
127	明清時調小曲に現れた時代的特色についての一考察：「新泛頭世界」を生きる「私情姐」たち	朴 春麗	13	2003	H15
128	Government speechの限界	徳永 達哉	13	2003	H15
129	中国石炭産業合理化の展開とその技術進歩：国有重点炭鉱を中心に	楊 慶敏	13	2003	H15
130	漫画における関西弁のイメージ	堀尾 佳以	13	2003	H15
131	イギリスの人種関係政策の現状と枠組み	山田 澄子	13	2003	H15
132	客家語と日本漢音、宋音の蟹撮字について：閩南語文語音と浙江呉語との関わりをめぐって	羅 濟立	14	2003	H15
133	台湾と日本のテレビドラマに見られる意見衝突の場面：処理方法を中心に	黄 士瑩	14	2003	H15
134	情報要求に対する応答発話の準備と展開の技術について：日本語のインタビュー会話をデータにした記述	黄 英哲	14	2003	H15
135	日本の婚姻習俗とキリスト教布教上の「適応」に関する考察	安 静珠	14	2003	H15
136	九州大学附属図書館医学分館所蔵貴重古医書に見られる江戸時代書肆について	大島 明秀	14	2003	H15
137	サッカー・サポーターに関する研究：韓国の「レッドデビルス」現象を中心に	呉 炫錫	14	2003	H15
138	日本語における「ヲ格+移動動詞」と「空間・場所名詞句」との結びつき関係	姚 艶玲	14	2003	H15
139	「ところヲ」構文のいわゆる副詞句類について(比較社会文化学府創立10周年記念号)	Xie Xin Ping	14	2003	H15
140	「都市=女」のカルトグラフィ：コスモポリタン・メキシコ・シティと「ネイティブ」の構築について	林 和宏	14	2003	H15
141	中国の石炭価格政策の変遷	楊 慶敏	14	2003	H15
142	文字言語と映像言語のナラティブ試論：太宰治『走れメロス』とアニメーション『走れメロス』	李 在錫	14	2003	H15
143	コミックマーケットの行方：ある「文化運動」に見る理念と現実の関係についての考察	稗島 武	14	2003	H15
144	日本マンガにおけるオノマトペ(1)：数量的調査対象及び基準を基盤に	陳 佳雯	14	2003	H15
145	古代中国における貝貨の特質：貝貨を巡る諸説の経済学的検討	楊 立国	14	2003	H15
146	NGOと世界水フォーラム：「水の民営化」を中心として	藤井 大輔	14	2003	H15
147	トルーマン政権における民間防衛政策の展開：冷戦初期の「安全保障国家」アメリカによる社会動員	川上 耕平	14	2003	H15
148	中国の民族政策における区域自治制度(上)：目標と枠組みに関する分析	哈日巴拉	14	2003	H15
149	北京における中国朝鮮族の移住と定住化の問題：新たなネットワーク形成の視点から	李 勁松	14	2003	H15
150	中国の民族政策における区域自治制度(下)：目標と枠組みに関する分析	哈日巴拉	15	2004	H16
151	韓国人学習者対象の日本語作文訓練の試み：訂正作業の効果	金 宥暻	15	2004	H16

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
152	日本植民地時期台湾の演劇活動にみる大衆化と抵抗：張維賢の系譜から	間 ふさ子	15	2004	H16
153	中断になった情報要求の発話について：日本語母語話者と非母語話者の比較	黄 英哲	15	2004	H16
154	Students' Image of the Teacher and Its Implications on Communication Gaps in the Japanese Language Classroom in Singapore	Lai Siew Hoon	15	2004	H16
155	満洲における林業調査と林業開発：1895-1930	永井 リサ	15	2004	H16
156	「纏足(チャンズウ)の頃」をよむ：その構造と表象	阿莉塔	15	2004	H16
157	清末民国期の日本による間島朝鮮族に対する教育	金 珽実	15	2004	H16
158	ヤングアダルト文庫における新人発掘・育成プロセスについて：コバルト・ノベル大賞と電撃ゲーム小説大賞を中心に	玉川 博章	15	2004	H16
159	日本語の談話における「ほめ」の機能	山路 奈保子	15	2004	H16
160	意見衝突の場面における日本人と台湾人の対処法について：若い世代を中心に	黄 士瑩	15	2004	H16
161	日本語の「ヲ格+移動動詞」構文と対応する中国語表現	姚 艷玲	15	2004	H16
162	接尾辞「的」の機能について	王 娟	15	2004	H16
163	黄道周と王鐸：明末清初文人交友考	松永 恵子	15	2004	H16
164	高倉徳太郎の神学における「キリスト教世界観」	崔 炳一	15	2004	H16
165	Linguistic Rules and Pragmatic Conventions: a verification of the six rules of verbal humor with puns in English.	Kawazoe Jun'ichi	15	2004	H16
166	中国における古代貨幣の発生を巡る諸学説について：『資本論』に基づく経済学的検討	楊 立国	15	2004	H16
167	青森・岩手県境不法投棄問題における「あいまいさ」と「ねじれ」	藤本 延啓	15	2004	H16
168	LA-ICP-MS(レーザー・アブレーション誘導結合プラズマ質量分析法)による九重および雲仙火山岩類石英中の微量元素	許 建明	16	2004	H16
169	現代朝鮮語・他動詞分類の試み：語彙-形態論的な特徴にもとづいて	米田 幸代	16	2004	H16
170	転換期における中国の石炭政策と石炭輸出問題	楊 慶敏	16	2004	H16
171	リズムと拍子：ブルレにおける音楽のリズム	佐藤 真紀	16	2004	H16
172	中唐から晩唐・北宋中期の文人の狂草観	松永 恵子	16	2004	H16
173	日本マンガにおけるオノマトペ(2)：単位語から見た使用傾向	陳 佳雯	16	2004	H16
174	学説史から見るマルクス価値形態論の発展とその課題の変化	楊 立国	16	2004	H16
175	アメリカ判例に見る「強制」の法理：公立学校における国旗敬礼・祈祷儀式に関する判例を素材として	徳永 達哉	16	2004	H16
176	韓国における中国朝鮮族エスニシティの差異化について：ソウル「朝鮮族タウン」の展開から見る	李 勁松	16	2004	H16
177	タイ人学習者向け初級聴解教材開発のための基礎研究	トーンディノック スカンヤー	16	2004	H16
178	イミューディアット・アプローチの日本語教育への適用の可能性：海外における初級会話教育のための一提案	池澤 明子	16	2004	H16
179	韓国の租税体系	鄭 鉉	16	2004	H16
180	国際政治の力学：システム論の視点から	バーリィシェフ エドワード	16	2004	H16

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
181	留学生の異文化接触のあり方からみる留学生個人および集団との関係	竹見 恵司	17	2005	H17
182	高倉徳太郎神学における教会思想	崔 炳一	17	2005	H17
183	パラメンタリー・ディベート：形式的特徴と教育的意義	中野 美香	17	2005	H17
184	韓国租税政策の変遷と今後の展望に関する研究：国税体系と税制機構を中心に	鄭 鉉	17	2005	H17
185	石英を用いたESR法による吸収線量の検討	許 建明	17	2005	H17
186	日本語とルーマニア語のオノマトペの対照研究(1)	ハムチュック モニカ	17	2005	H17
187	アスペクト表現の「～ている」に関する習得研究：中・上級の中国人日本語学習者の場合	徐 莉	17	2005	H17
188	Russo-Japanese Rapprochement during the First World War: World System Factors	Baryshev Eduard	17	2005	H17
189	雑誌「蒙疆文学」の小説群：「蒙疆文学賞」受賞作を中心に	阿莉塔	17	2005	H17
190	<相手を評価する発話>についての一考察：日本語の「ほめ」と「けなし」をめぐって	山路 奈保子	17	2005	H17
191	韓国人日本語学習者によるくだけた会話の問題点について	石川 朋子	17	2005	H17
192	日・韓の授受動詞の用法：学習者の誤用に着目して	金 瑞賢	17	2005	H17
193	地域日本語学習支援活動へのイミディアット・アプローチ適用の可能性	池澤 明子	17	2005	H17
194	自治運動から関東軍との連携へ：徳王と日本との関係(その1)	丁 曉杰	18	2005	H17
195	植村正久のキリスト論	崔 炳一	18	2005	H17
196	形容詞的用法の「動詞+た」形連体節についての一考察	趙 海城	18	2005	H17
197	大友宋麟の葬式に見られるイエズス会の「適応」について	安 瀨珠	18	2005	H17
198	新聞小説『鷄林情話 春香伝』をめぐる一考察：新聞掲載に至る経緯を中心に	鄭 美京	18	2005	H17
199	「コミュニティバス」の意義と課題	前田 善弘	18	2005	H17
200	言語政策に反映される民族間関係とその諸問題：沿ドニエストル共和国、ガガウズ共和国を比較事例として	佐藤 圭史	18	2005	H17
201	九州大学全学教育における英語オンラインシラバス分析	津田 晶子	18	2005	H17
202	日本語とルーマニア語のオノマトペの対照研究(2)	Hamciuc Monica	18	2005	H17
203	外国人児童の日本語談話の理解と産出に関する一考察	石川 朋子	18	2005	H17
204	Small Arms and Light Weapons Problems and its Treatments in Peace-Building Processes: Case of the Disarmament, Demobilization and Reintegration Programs in Sierra Leone	Matsuno Sayuri	18	2005	H17
205	間島において中国側が設立した語学学校	金 珽実	18	2005	H17
206	西欧との出会いにおける日朝の対応：日本の「南蛮学」と朝鮮の「西学」	安 瀨珠	19	2006	H18
207	スポーツを分析する社会学的理論に関する一考察	呉 炫錫	19	2006	H18
208	日本語の接尾辞「的」の機能について：「的」付きナ形容詞が文全体及び文章に与える影響	王 娟	19	2006	H18
209	日中日常あいさつ表現考察：テレビドラマの対照比較から	曲 志強	19	2006	H18
210	間島における日本側が設立した補助学校について	金 珽実	19	2006	H18

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
211	日本人とマレーシア人の謝罪行動の対照分析：謝罪ストラテジーを焦点に	クモハマドナビル	19	2006	H18
212	売茶翁と文人煎茶：売茶翁と上田秋成を中心に	馬 叢慧	19	2006	H18
213	ハンセン病者の文学に関する一考察：<生活をつくる実践>としての沖縄愛楽園のハンセン病者文学	桑畑 洋一郎	19	2006	H18
214	文学作品を利用した上級日本語教育の試み：異文化理解促進のために	山路 奈保子	19	2006	H18
215	『金色夜叉』と『長恨夢』に関する考察	鄭 美京	19	2006	H18
216	フィリピンにおける諸ポピュリズム間のヘゲモニー争い：新自由主義体制下における「階層矛盾」の政治的表出とその動態	日下 涉	19	2006	H18
217	紛争跡地観光に関する一考察：ベルファスト市を事例として	福井 令恵	19	2006	H18
218	『葉隠』にみる家臣の『譜代』意識と御家の『家風』	野口 朋隆	19	2006	H18
219	「仕方なくやる」生：李恢成「砧をうつ女」	林 相珉	19	2006	H18
220	とりたてて詞「も」の意味：認知意味論の観点から	王 淑貞	19	2006	H18
221	日中のポジティブ・ポライトネスの対照研究：日本語と中国語の談話分析を通して	平 静	20	2006	H18
222	中国人学習者の日本語談話における文末スタイルの認識について	王 曉梅	20	2006	H18
223	関漢卿考	福永 美佳	20	2006	H18
224	1947年から2000年までの大衆雑誌にあらわれた「結婚」・「独身」に関する記事の変化：記事タイトルの数量分析を中心に	呉 珉庚	20	2006	H18
225	中国語の aspekt 表現"在"、"呢"、"着"について	徐 莉	20	2006	H18
226	実在としての記憶：ベルクソン『物質と記憶』における「記憶」の概念について	釜堀 幸	21	2007	H19
227	日本人とマレーシア人の謝罪行動の対照分析：謝罪意識を焦点に	KuMohd Nabil	21	2007	H19
228	アспект表現のテイル分類の再検討：中国人の日本語学習者の場合	徐 莉	21	2007	H19
229	アレン・ブキャナンの分離理論の意義と限界：リベラル・ナショナリズム論の観点から	白川 俊介	21	2007	H19
230	現代大学入学資格検定受検者家庭における教育アスピレーションの世代間伝達	菅澤 貴之	21	2007	H19
231	周作人における「趣味」の内実	鳥谷 まゆみ	21	2007	H19
232	投企空間としての戦後アジア：ボクシングの東洋選手権成立の過程から	乗松 優	21	2007	H19
233	壁画と場所：北アイルランドの二つのコミュニティの壁画にみる内容と場所性	福井 令恵	21	2007	H19
234	黒人奴隷と自由の帰趨	峯 真依子	21	2007	H19
235	朱子学伝播、その根幹としての書堂教育：朝鮮後期の郷村社会における書堂の仕組みを中心に	余 信鎬	21	2007	H19
236	日本少女まんがにおける擬態語(1)：意味・形態的特徴を中心に	李 大年	21	2007	H19
237	第二次世界大戦期におけるアメリカ国務省の戦後安全保障構想：安全保障小委員会の議論を中心として	池上 大祐	22	2007	H19
238	不同意の表明の仕方：日中の対照を中心に	王 萌	22	2007	H19
239	戦国期島津氏における酒食饗応儀礼：「式三献」と「かわらけ」	楠瀬 慶太	22	2007	H19

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
240	日本人とマレーシア人の謝罪行動の対照分析：マレーシアの日本語教育への提言	Ku Mohd Nabil	22	2007	H19
241	ソ連末期における民族自治領域創設運動の比較研究：ガガウズ人地区、沿ドニエストル地区、リトアニア・ポーランド人地区を事例として	佐藤 圭史	22	2007	H19
242	連体修飾節に現れる「トイウ」の機能について	周 怡来	22	2007	H19
243	中国朝鮮族女性における国際結婚：韓国人男性と国際結婚が行われる社会的要因について	鄭 艶紅	22	2007	H19
244	新しい形容詞	堀尾 佳以	22	2007	H19
245	第二言語としての日本語のアスペクト習得研究概観	崔 垂珍	22	2007	H19
246	日本少女まんがにおける擬態語(2)：意味・形態的特徴を中心に	李 大年	22	2007	H19
247	認知意味論によるとりたて詞「も」の特殊な組み立て：「XもX、YもY」を中心に	王 淑貞	23	2008	H20
248	日本人の不同意表明の仕方(1)	王 萌	23	2008	H20
249	韓国における日本少女マンガの受容：矢沢あい『NANA』の読者を対象に	金 慈恵	23	2008	H20
250	福岡における朝鮮学校/民族教育の誕生と変遷	金 泰植	23	2008	H20
251	謝罪場面において使用される謝罪に対する応答のストラテジーと表現の使用状況：10代の日本語母語話者を中心に	KuMohd Nabil	23	2008	H20
252	ヤエル・タミールの「複数ネイション主義」構想の批判的検討：「リベラリズムの中立性原理」との関係性を中心に	白川 俊介	23	2008	H20
253	ルソー『エミール』における自然人の問題：自然の概念と「単純さ」についての考察	原田 裕里	23	2008	H20
254	動詞化接尾辞「-る」について	堀尾 佳以	23	2008	H20
255	The Romantic Child in the American Home: Hawthorne's Violet, Peony, and Annie	Ikuta Kazuya	23	2008	H20
256	テレビ討論番組におけるフィードバックの機能と司会者の役割	網野 薫菊	24	2008	H20
257	隠喩とは何か	Strack Daniel	24	2008	H20
258	日本人の不同意表明の仕方(2)	王 萌	24	2008	H20
259	日韓談話スタイルにおける「あいづち」の基礎的研究	崔 維卿	24	2008	H20
260	「～テクル」と「～起来」の意味拡張ネットワークについての対照研究	蔣 劍波	24	2008	H20
261	北京日本学術センターの調査から見た中国における日本語教育：総合日本語「精読」における教授活動と学習活動を中心に	席 衛国	24	2008	H20
262	近世領土の「国境」認識：黒田・鍋島の脊振弁財嶽国境争論から	田中 由利子	24	2008	H20
263	「是不是」構文からみる中国語のポライトネス表現	平 静	24	2008	H20
264	日韓少女まんがにおける擬態語の対照研究	李 大年	24	2008	H20
265	始動局面を表す動詞形式の基礎研究：「～かける」、「～はじめる」、「～だす」について	呂 芳	24	2008	H20
266	古ウイグル語文献中のyiti/sakiz tistaki boz「七/八齒棉布」について	田先 千春	24	2008	H20
267	戦国大名島津氏の権力形成過程：島津貴久の家督継承と官途拝領を中心に	大山 智美	25	2009	H21

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
268	丸山慎男の「近代化」観の変容について：箱根会議の議論を中心に	垣内 健	25	2009	H21
269	カザフスタン人日本語学習者の外国語学習観：ロシアとの比較から	久木元 恵	25	2009	H21
270	虎皮考：日本古代・中世における虎皮の流通と消費に関する一考察	楠瀬 慶太	25	2009	H21
271	日本語学習者は動詞とマーカーをどのように結びつけるのか	塩川 絵里子	25	2009	H21
272	連体修飾節における「V十夕」の中国語訳について	趙 海城	25	2009	H21
273	巨大化する自然：Of Mice and Menに立ち現れる自然表象をめぐって	吉津 京平	25	2009	H21
274	日韓少女まんがにおける擬態語の対照研究：精神的衝撃を受ける様子を表す擬態語を中心に	李 大年	25	2009	H21
275	情報なわ張り理論から見た終助詞「ね」の談話機能	顔 暁冬	26	2009	H21
276	石垣原合戦記 九州の関ヶ原、石垣原合戦を題材とした軍記・伝記史料(上)	守友 隆	26	2009	H21
277	学習者のレベルがリキャストの気づきに与える影響：「直後発話」による気づきの判定基準をもとにして	久木元 恵	26	2009	H21
278	映像作品を利用する教室指導法	徐 燕	26	2009	H21
279	日中化粧品広告ディスコースの対照分析：広告の発話内容を中心に	臧 薇	26	2009	H21
280	足利幕府が目撃した『太平記』とその作者についての考察	山部 木の実	26	2009	H21
281	日本語学科におけるテレビドラマ教材の使用に関する一考察：中国と韓国を比較して	姚 瑶	26	2009	H21
282	Dismantled Time in Slaughterhouse-Five : Is Billy Really Traveling in Time?	Yoshizu Kyohei	26	2009	H21
283	実際の会話場面における「から」と「ので」の使い分けに関する研究	李 曦曦	26	2009	H21
284	日本研究と近代化論：「近代日本研究会議」を中心に	垣内 健	27	2010	H22
285	石垣原合戦記 九州の関ヶ原、石垣原合戦を題材とした軍記・伝記史料(下)	守友 隆	27	2010	H22
286	日本語会話授業における否定フィードバック研究概観：リキャストに焦点を当てて	久木元 恵	27	2010	H22
287	いまひとつの多文化共生世界の構想：リベラル・ナショナリズム論の視座から	白川 俊介	27	2010	H22
288	戦後日本における戦時指導者・戦争犯罪人観(上)山口県発刊のメディアに見る岸信介観を通して	大和 裕美子	27	2010	H22
289	日本と中国におけるクレーム交渉の談話の対照研究：客とサービス関係者のストラテジーを中心に	胡 敏男	28	2010	H22
290	筑前国黒崎宿桜屋の宇都宮正顕像の再検討：『贈従五位宇都宮正顕翁小伝』の成立過程・テキスト分析を中心に	守友 隆	28	2010	H22
291	山下奉文裁判と指揮官責任(上)：「11.12指令」との関連で	佐藤 秀信	28	2010	H22
292	メタ言語的な働きを持つ接続表現に関する一考察	周 莉恵	28	2010	H22
293	日中中級日本語総合教科書の比較分析－：語用論的技能養成という観点から	徐 燕	28	2010	H22

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
294	化粧品広告ディスコースにおける情報の伝達様式について：化粧品広告の日中対照分析から	臧 薇	28	2010	H22
295	動詞述語文における「が」「は」の出現条件：動詞の意味特徴との関係を中心にして	弘瀬 葉子	28	2010	H22
296	The Precession of Palmer Eldritch:A Baudrillardian Reading of Philip K. Dick's The Three Stigmata of Palmer Eldritch	Allan Bouarib	28	2010	H22
297	山崎正和における「永生」の観念：現代的虚無主義への処方箋	水野 崇	28	2010	H22
298	戦後日本における戦時指導者・戦争犯罪人観(下)：山口県発刊のメディアに見る岸信介観を通して	大和 裕美子	28	2010	H22
299	他者化した自己：Slaughterhouse-Fiveにおけるスキゾフレニア	吉津 京平	28	2010	H22
300	「じゃないか」と「じゃないの」	李 杰	28	2010	H22
301	日本語における多義語習得研究概観	麻生 迪子	29	2011	H23
302	幕末期対馬藩主宗義達(善之允)の「嫡子成」における江戸藩邸・国元藩庁と幕府との折衝・情報伝達：宗家文庫、万延二辛酉年「義和様御二男善之允様御前様御養御嫡子成御記録」の分析を中心に	守友 隆	29	2011	H23
303	イスラーム信仰の維持と反ネオリベラリズムの精神：「福岡 Masjid」を事例に	生田 篤	29	2011	H23
304	日本の男性の話し方の特徴：年代の異なる男性の自称詞使用	王 龍	29	2011	H23
305	山下奉文裁判と指揮官責任(下)「11.12指令」との関連で	佐藤 秀信	29	2011	H23
306	台湾人日本語学習者の日本語ディベートにおける誤用の実態：日本語母語話者とのコミュニケーションへの影響という観点から	周 莉恵	29	2011	H23
307	中国における日本語学習者の会話能力の測定について：skypeによるOPIインタビューの試み	張 毅	29	2011	H23
308	日本語終助詞におけるジェンダー：大学生の自然会話に焦点を当てて	陳 一吟	29	2011	H23
309	日本語と中国語のポライトネスの対照研究：医療場面における自然会話を中心に	王 建波	30	2011	H23
310	溝口雄三からみる日本の中国学の新たな視座	王 晶	30	2011	H23
311	わが国におけるインディカ型稲の打穀法について：筑後久留米藩の大唐米栽培と四季耕作図絵馬を中心に	神谷 美和	30	2011	H23
312	非文末「ですね」の共起傾向に関する一考察	顔 曉冬	30	2011	H23
313	R時の認識の観点から見た日本語テンス・アスペクトの習得研究：イラストを使った文完成テストを用いて	崔 亜珍	30	2011	H23
314	「直茂様御教訓ヶ条覚書」の成立とその意義：近世武家「家訓」の性絡をめぐる一考察	田中 由利子	30	2011	H23
315	「聞き手」側から見た日本語の「共話」：テレビの談話番組に注目して	陳 一吟	30	2011	H23
316	「のだ」の意味と用法に関する研究：中国語との対照を通して	范 碧琳	30	2011	H23
317	中国語を母語とする日本語学習者の漢語・漢字語習得研究の概観：母語の影響、転移を中心として	藤山 智子	30	2011	H23
318	日本語の自然会話における「笑い」のジェンダー対照研究	李 雪	30	2011	H23
319	The Tar-and-Feathering in “My Kinsman, Major Molineux”	生田 和也	31	2012	H24
320	A Communicative Translation Approach to Chinese-English Translation of Public Signs	王 晶晶	31	2012	H24

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
321	福岡県の農耕絵馬：地域史料としての基礎的研究	神谷 美和	31	2012	H24
322	近世における地方神社の触頭支配確立：香椎宮奉幣使発遣を契機とした福岡藩桜井神社の触頭化をめぐる	田中 由利子	31	2012	H24
323	日本語の連体修飾句に関する習得研究概観	毛 瑩	31	2012	H24
324	否定の意味を示さない「～ないか」について：中国語との対照を中心に	李 杰	31	2012	H24
325	中国の大学におけるビジネス日本語教育の現状と問題点について	仇 文俊	32	2012	H24
326	日韓両言語における「あいづち」と「フィラー」の機能分析：「はい」と「네 (Ne)」をめぐる	崔 維卿	32	2012	H24
327	動的文法理論から見る可能な文法	毛 瑩	32	2012	H24
328	Translating Time : Past and Present in Haruki Murakami's Norwegian Wood	Yuli restiani	32	2012	H24
329	日本語母語話者におけるP-centerの位置	石田 英明	33	2013	H25
330	中国人日本語学習者のための学習漢字の選択	薛 華民	33	2013	H25
331	東京裁判観：占領下の日本国民は東京裁判をどう見たか	中立 悠紀	33	2013	H25
332	Swallowing Simulacra : The Cases of Philip K. Dick and Shinji Kajio	Allan Bouarib	33	2013	H25
333	The White Men in Borneo : Joseph Conrad' s Earlier Malay Fiction	Fujiyama Kazuhisa	33	2013	H25
334	中国語を母語とする日本語学習者の語彙知識の深さと文章理解	藤山 智子	33	2013	H25
335	Stop the Clocks : Vonnegut' s Conception of Time in Slaughterhouse-Five	Yoshizu Kyohei	33	2013	H25
336	From "Floating Population" to "Guest Beijinger" : Identity Formation of Migrant Workers in Beijing	Li Wei	33	2013	H25
337	条件接続助詞と指示詞の文法化プロセス：「たら」「なら」を例として	李 慧	33	2013	H25
338	中国における天然ガス自動車の普及促進政策と今後の展望：四川省成都市を事例として	李 霄	33	2013	H25
339	Guanxi Network Based Social Stratification and Social Mobility in China : A New Approach to Social Stratification and Mobility Study	Li Shuanglong	33	2013	H25
340	中国人日本語学習者のメタファー表現理解に影響する要因：母語とメタファー基盤に関わる知識を中心に	鐘 勇	34	2013	H25
341	入声字（音）の弁別及びその学習	薛 華民	34	2013	H25
342	リビアにおける権威主義体制存続メカニズム：カッザーフィー体制（1969-2011）の研究	田中 友紀	34	2013	H25
343	「指示詞+時間名詞」の対照研究：「こー+時間名詞」と「这+時間名詞」を例として	張 婷婷	34	2013	H25
344	ロシアにおける日本語教育のあけぼの：ロシアの東方政策から考える	東出 朋	34	2013	H25
345	異文化接触と植民地主義：Joseph ConradのLord Jimにおけるマレー世界	藤山 和久	34	2013	H25
346	Taboo language and gender in Polish : A written text corpus analysis	Wolanski Bartosz	34	2013	H25

No.	論文タイトル	著者	巻	年	
347	特定健康診査・特定保健指導におけるコミュニケーションの特徴	上野 満里	35	2014	H26
348	相容れない批判意識：『知の帝国主義：オリエンタリズムと中国像』と溝口雄三をめぐって	王 晶	35	2014	H26
349	終戦直後における「学問の民主化」と丸山眞男：青年文化会議の民衆教育活動を手がかりに	塩原 光	35	2014	H26
350	擬音語の擬態語化についての日中対照研究：日本語「ABAB」型オノマトペ両用語と中国語「ABB」型形容詞を例として	趙 寅秋	35	2014	H26
351	日本語受身文とその中国語対訳文の対照研究：「動作主なし」の直接受身文を中心に	梅 佳	35	2014	H26
352	大阪・鶴橋におけるエスニック・ビジネス展開状況：食料品事業者の味付け戦略の調査を中心に	李 商益	35	2014	H26